

地図とコンパス

(平成26年度「軌跡」巻頭言より)

本校の校歌にも登場する鳥海山。私が初めて登ったのは、中学3年の夏である。以来、四季折々の鳥海山に登り、様々な経験を積んできた。

登山で大切な装備がいくつかあるが、その中で、山のルートを知るための地図は必須のアイテムである。目標とする山の状況を地図で事前調査し、その地図で現地のコースを確認しながら登る。地図を読まない登山は、遭難へとつながる。特に初めて登る山では、地図による入念な事前準備が、安全登山への第一歩である。

高校生の進路実現の過程は、よく航海や登山にたとえられる。生徒にとって、大学受験や就職試験は初めての経験である。その際の地図に相当するのが、進路の手引き「軌跡」である。年間計画・卒業生の進路状況・入試分析・学習法・進学経費等、進路を考えるために必要な事柄が網羅されている。中でも、卒業生からのアドバイスと激励文である「たいまつ」は、本荘高校生の誰もが共感できる言葉の珠玉であり、世界中のどの店にも売っていない一級の地図である。生徒はもちろん、保護者の方々にも、隅々まで読んでいただきたい。

さて、積雪期の山では、霧や吹雪のために、地図があっても進むべき方向がまったく分からなくなってしまうことがある。登山の世界では、この状況を「ホワイトアウト」と呼ぶ。そんな時、自分の経験や勘だけを頼りに行動を続けてしまうと、同じ場所をグルグルと歩く「リングワンダリング」となり、自分の現在位置も分からない状況に陥ってしまう。

「リングワンダリング」を避けるために必要なアイテムが、方位磁針のコンパスである。磁北線を引いてある地図にコンパスをあてることによって、正確な進路が分かり、「ホワイトアウト」状態の中でも安全な登山を続けることが可能である。

山の地図が「軌跡」なら、コンパスに相当するのは、本荘高校の教職員である。本校の教職員は、生徒一人ひとりの現在位置を正確に把握している。「ホワイトアウト」になったら、迷わず職員にアドバイスを求めるとよい。

地図とコンパスを上手に使うことが、快適で安全な登山の基本である。

*平成26年度「軌跡」は、6月上旬に全生徒に配付予定です。